

# 新国立美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）（仮称）

## 基 本 計 画

平成11年3月

新しい美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）  
に関する基本計画検討協力者会議

## はじめに

今日、価値観の変動と多様化、国際化の進展や大競争の激化など、経済・社会情勢が大きく変化する中で、「文化」の重要性が大きくなってきており、21世紀を目前に控え、「文化立国」を実現するための文化政策の充実が求められている。

特に、美術への関心の高度化、美術活動の活発化、多様化、国際化が著しく進展しており、全国的公募展や大型企画展の会場や国内外の展覧会情報等の収集・提供及び教育普及活動を行うための施設の整備が喫緊の課題となっている。

このような状況の中、平成7年10月に文化庁に設置された「新しい美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）に関する調査研究会」において、美術展示施設設立のための検討が行われ、平成8年3月、「新しい美術展示施設設立の基本構想」が取りまとめられた。

この基本構想を踏まえて「基本計画」を策定するため、平成8年12月に「新しい美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）に関する基本計画検討協力者会議」が設置された。

本会議においては、専門部会を設置し、新しい美術展示施設の目的・機能及び施設内容・規模等について具体的かつ慎重な検討を行った。

ここに、その検討の結果を踏まえて、「新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)（仮称）基本計画」を取りまとめたので、報告する。

# 新国立美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）（仮称）

## 基本計画

### I. 新しい美術展示施設の概要

#### 1. 目的

美術への関心の高度化，美術活動の活発化，多様化，国際化等に対応するため，全国的公募展や大型企画展などへの施設の提供を行うとともに，国内外の展覧会情報などの収集・提供や教育普及活動を行うことにより，我が国の美術の振興と国民の美術鑑賞機会の充実に図り，もって文化の向上に寄与する。

#### 2. 名称

当面，「新しい美術展示施設設立の基本構想」における「新国立美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）（仮称）」を継承することとし，正式名称については今後検討することが必要である。

（この基本計画においては，以下，「ナショナル・ギャラリー（仮称）」と略記する。）

#### 3. 設置場所

東京大学六本木地区移転跡地の一部（東京都港区六本木7-22-1）

同大学においては，現在，移転が進行中であるが，その跡地となる約48,000㎡のうち，概ね30,000㎡程度をナショナル・ギャラリー（仮称）の用地とすることが必要と考える。

また，基本構想において指摘された交通の利便性，快適性等の観点から，同敷地の北側（現在の生産技術研究所敷地）部分を建設予定地とすることが望ましい。これにより，地下鉄乃木坂駅及び環状3号線からのアクセスが容易となる。

#### 4. 事業

ナショナル・ギャラリー（仮称）においては、次の事業を行う。

##### (1) 展示施設の提供

- ①全国的な活動を行っている美術団体（組織）が実施する展覧会（公募展等）の利用に供する。
- ②国立美術館や新聞社等が共同して実施する大型企画展などの利用に供する。

##### (2) 情報の収集，提供

国内外の展覧会の情報を中心に収集し，広く公開する。その際，国公立美術館との連携協力を図る。

##### (3) 教育普及

国民の美術に関する関心・意欲の高度化等に対応し，美術に関する公開講座等を実施するとともに，美術団体等が行う講習会等の利用に供する。

#### 5. 設置形態

国の行財政改革の一環として，国立美術館については独立行政法人化の準備が進められているが，このような動向を見極めながら，適切な設置形態について，今後検討することが必要である。

#### 6. 管理運営方法

設置形態の検討と同様に，国の行財政改革の動向を見極めながら，民間活力の導入等も含め，効率的・効果的な管理運営方法について，今後検討することが必要である。

#### 7. 施設

我が国を代表する美術展示施設に相応しい外観とし，質の高い展示空間及び関連施設を整備するとともに，周辺施設及び環境に十分配慮した施設とする。

また，施設の内容及び規模は，ナショナル・ギャラリー（仮称）の機能が十分に発揮できるものとするとともに，屋外施設についても，機能及びサービスの向上に資する緑地，オープンスペース等の空間を十分確保することとする。

さらに、身体障害者や高齢者対応に十分配慮するとともに、環境問題への対策及び維持管理経費の節減のための工夫を図る必要がある。

なお、多様化する現代美術など、急速に進展する美術活動にも対応できるよう配慮する。

## II. 施設の概要

### ⑦施設の内容

#### 1. 展示部門

##### (1) 展示施設

- ① 展示室
- ア. 公募展のために必要な展示室を整備することとし、その一部は大型企画展の開催が可能なものとする。
  - イ. 多様な美術展に対応できるよう、十分な空間とフレキシブルなスペースを確保するとともに、設備・仕様に配慮する。
  - ウ. 身体障害者及び高齢者に配慮するとともに、良好な鑑賞環境を確保するため、観客の動線は可能な限り平面移動とすることが望ましい。
  - エ. 展示効果を高めるため、展示室との一体性を考慮した野外展示場を整備する。
  - オ. 搬入搬出施設との連絡に配慮し、展示及び撤収作業の利便性を確保する。
  - カ. 空調、保安等に配慮した良好な展示環境を確保する。

- ② 諸室
- ア. 展示室に対応する主催者控室、休憩室、ホワイエ、倉庫等を整備することとし、その一部は大型企画展などへの対応も可能なものとする。
  - イ. 諸室は、良好な鑑賞環境を向上させ、また、展覧会運営の円滑化に資するためのものであることから、十分なスペースを確保する。

##### (2) 搬入搬出施設

- ア. 作品の搬入搬出のための十分なスペースを確保するとともに、外部とのアクセスに配慮する。

- イ. 公募展のための審査関係諸室を十分確保する。
- ウ. 大型企画展などにおける海外からの搬入作品のための燻蒸室を確保する。
- エ. 作品を一時保管するための保管庫については、十分なスペースと環境に配慮する。
- オ. 展示及び撤収作業の利便性を確保するため、展示室との連絡に配慮する。

## 2. 情報部門

展覧会に関するカタログ、記録、資料等を積極的に公開するため、図書閲覧室、視聴覚コーナー等を整備し、各種メディアを活用した情報提供環境を確保する。

## 3. 教育普及部門

講演会、研修会、公開講座、シンポジウム等の開催に対応できる講堂、研修室等を整備する。

## 4. 管理部門

- ①ナショナル・ギャラリー（仮称）の管理運営のための事務室、応接室、会議室、倉庫等を整備する。
- ②施設の維持管理に必要な中央管理室、防災センター等を整備する。

## 5. 共通・サービス部門

- ①エントランスロビーは、展示空間への導入をなすものであることから、十分なスペースと芸術的雰囲気配慮する。
- ②レストラン、喫茶及びショップは集客及びサービス向上の観点から、配置とスペースに配慮する。
- ③廊下・階段等の共通部分についても、観客動線を踏まえた配置とスペースに配慮する。

## 6. 駐車施設

- ①一般来館者用 ・東京都駐車場条例に基づく法定駐車台数を確保する。
- ②作品搬出入用 ・外部とのアクセスに配慮するとともに、十分なトラックヤードを確保する。

## 7. 屋外施設

- ①野外展示場
  - ・多様化する彫刻作品の展示に対応するため、野外展示スペースを十分確保する。
- ②緑地等
  - ・芸術的雰囲気を醸し出し、機能及びサービスの向上に資する緑地及びオープンスペースを十分確保する。

## 8. その他

- ①建設予定地の立地条件を踏まえた来館者の利便性を考慮し、交通機関及び道路との連絡を容易にするなど、歩行動線及び車輻動線の確保に十分配慮する。
- ②東京大学六本木地区移転跡地のうち、隣接地となる部分の整備計画との連携を図り、一体性をもった施設整備がなされることが望まれる。

### ①施設の規模

ナショナル・ギャラリー（仮称）の機能を十分に発揮できる施設規模としては、展示部門約22,700㎡（うち展示室約14,000㎡）、情報及び教育普及部門約1,900㎡、管理部門約900㎡、エントランスロビー等の共通・サービス部門約12,000㎡及び駐車施設約7,700㎡など、全体として約45,200㎡が適当である。

なお、施設規模の詳細は別表のとおりである。

## ナショナル・ギャラリー(仮称)の施設規模

区 分	所要面積	摘 要
<b>展示部門</b>	m <sup>2</sup>	
①展示施設	約22,700	2,000m <sup>2</sup> ×7室, 一部(2室)は大型企画展の開催が可能なものとする。 展示室に対応する諸室を整備する。400m <sup>2</sup> ×5室, 500m <sup>2</sup> ×2室(大型企画展対応) 主催者控室, 休憩室, ホワイエ, 倉庫等
・展示室	約17,000	
・諸室	約14,000	
	約 3,000	
②搬入搬出施設	約 5,700	審査室, 審査員控室, 保管庫, 写場, 作業室, 作業員控室, 倉庫等 燻蒸室, 保管庫, 作業室, 作業員控室, 倉庫等
・公募展用	約 4,400	
・企画展用	約 1,300	
<b>情報部門</b>	約 1,000	図書閲覧室, 書庫, 視聴覚コーナー, 資料整理室, ホワイエ等
<b>教育普及部門</b>	約 900	講堂, 研修室, 講師室, ホワイエ, 倉庫等
<b>管理部門</b>	約 900	事務室, 応接室, 会議室, 倉庫等 警備員室, 作業員室, 中央管理室, 防災センター等
・事務室等	約 600	
・その他	約 300	
<b>共通・サービス部門</b>	約12,000	エントランスロビー, 案内・切符売場, 休憩コーナー, ロッカーコーナー等 設備機械室, 廊下・階段
・エントランスロビー等	約 2,400	
・レストラン, 喫茶	約 650	
・ショップ	約 150	
・共通	約 8,800	
小 計	約37,500	
<b>駐車施設</b>	約 7,700	法定駐車台数 125台
・一般来館者用	約 4,900	
・作品搬出入用	約 2,800	
合 計	約45,200	
<b>屋外施設</b>		機能及びサービス向上に資する空間であり, 敷地内に最大限に確保する。
・野外展示場		
・緑地, オープンスペース等		

新しい美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）に  
関する基本計画検討協力者会議専門部会協力者

（五十音順・敬称略）

- 旭 充 日本放送協会事業部副部長
- 内山 武夫 京都国立近代美術館長
- 小田島 章 文部省大臣官房文教施設部指導課長
- 甲斐 久紀 (株)日経カルチャー常務取締役
- 手塚登久夫 社団法人二科会評議員，彫刻家
- 寺坂 公雄 社団法人日展評議員，洋画家
- 福井 爽人 財団法人日本美術院評議員，日本画家
- 真室 佳武 東京都美術館長
- 三浦 定俊 東京国立文化財研究所保存科学部長

（○・・・座長）